

## 森の原遺跡

遺跡番号 NO. 639  
調査回数 第1次  
所在地 村山市土生田字鼠田  
北緯・東経 38度33分34秒・140度23分53秒  
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所  
起回事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢間）  
調査面積 760㎡  
現地調査 平成22年10月4日～11月30日  
調査担当者 高橋 敏（現場責任者）・千田一志・佐藤智幸  
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所  
遺跡種別 集落跡  
時代 縄文時代・平安時代  
遺構 柱穴、溝跡、土坑  
遺物 縄文土器・石器・土師器・須恵器・陶磁器（文化財認定箱数：1箱）

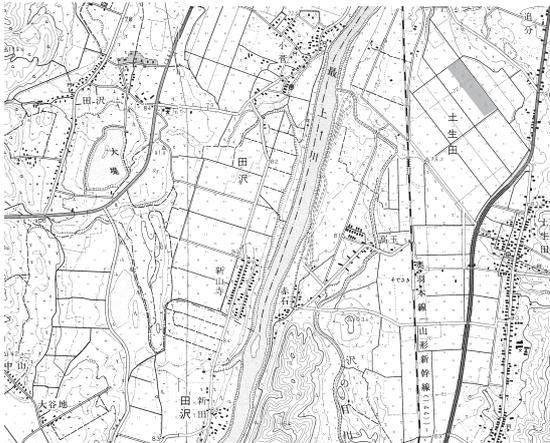


図1 遺跡位置図 (1:50,000)



図2 縄文土器片出土状況

森の原遺跡は村山市北部の最上川右岸、JR袖崎駅の北方約1.4kmで、大石田ゴルフクラブの南側に広がる低地の自然堤防上に立地し、スイカやさくらんぼなどの畑地となっている。

今回の調査は、高速道路用地に沿って走る取り付け道路部分の調査である。このため調査区は高速道路予定地の東西両側に幅約5mの帯状に設定した。東側調査区からは溝状遺構や性格不明遺構のほかに、いくつかの柱穴が確認されている。いずれも遺物が出土せず、時期は不明である。西側調査区からは溝跡や柱穴、縄文土器細片

や炭化物を多く含む落ち込み状遺構が確認されている。また、柱穴の多くからは柱痕跡（アタリ）が確認できたが、調査区が狭いこともあって、建物跡を見つけることはできなかった。

遺物は表土掘削中に出土した少量の近現代の陶磁器と、遺構確認の際に出土した縄文土器片が主で、他に平安時代の須恵器片がごく少量出土している。いずれも小片で、特に縄文土器片は傷みが激しいものが多く、表面は剥離し紋様も確認しにくくなっている。石器は鉄石英製の石鏃や剥片が少量みられるだけである。